

新入生を迎え入れる大学生協の取り組み

— 友達づくりを支える 新入生歓迎会 —

大学生生活協同組合連合会 北海道・東北ブロック事務局長 本間 寛

大学生協では、毎年春の新入生受け入れ期にあわせて、学生同士のつながりづくりを重視したさまざまな取り組みを行っています。大学生活のスタート段階において、学習環境への適応と並んで重要なのが、人とのつながりを築くことです。生協はその第一歩を支える役割を担っています。

中でも中心となるのが、新入生歓迎会をはじめとした交流イベントです。入学直後は、知り合いがいないことへの不安や、孤立感を抱きやすい時期でもあります。そこで多くの大学生協では、新入生同士の交流を中心とした歓迎企画を実施し、自然な会話や出会いが生まれる場を提供しています。学部・学科を超えたグループ構成や、共通の関心ごとをテーマにした企画内容により、初対面でも参加しやすい工夫を行っています。

また、歓迎会には在学生在がサポート役として参加し、キャンパスライフに関する情報提供や相談対応も行っ



公立はこだて未来大学生協 新入生歓迎会全体会

ています。これにより、新入生同士の交流だけでなく、先輩とのつながりも生まれ、「困ったときに相談できる相手があった」「はじめてのひとり暮らしで不安でしたが友達ができ安心しました」など様々な声が多く聞かれます。こうした人間関係は、その後の学習や学生生活を支える大切な基盤となります。

他にも、事前に学内を先輩たちが紹介する「キャンパスツアー」や、入学後食堂をスムーズに使用することを目的とした「食堂利用体験」。共済や保険に加入された方にむけた「もしもの時の連絡先」、4年生や院生など上位学生が語る「先輩体験談」など様々な企画を併用し、各大学生協が考え、色を出しながら取り組みをおこなっております。

大学生協は、食や物品の提供にとどまらず、学生が安心して学び、生活できる環境づくりを目指しています。新入生歓迎会をはじめとする取り組みは、その理念を具体的に形にしたものです。今後も大学生協は、学生一人ひとりが大学に居場所を見つけられるよう、交流と支援の場を継続して創出していきます。



旭川市立大学生協 CO・OP 学生総合共済についての説明



第1弾

「環境と食料生産を考える！圃場見学会」

～羊蹄山のふもとで「土を育てる農業」の未来に出会う～



真狩高校の紹介

環境再生型農業の探求で、いくつもの賞を受賞している真狩高校。「20年後の農業を今、始めよう」を合言葉に、日々研究を重ねる高校生たちの圃場を訪問します。初夏の羊蹄山を背景に、土に触れ、食の未来を一緒に考えてみませんか？



開催概要

日時：2026年6月9日(火) 雨天決行
 集合：8時15分 バス出発：8時30分
 集合場所：JR 札幌駅北口団体バス乗り場
 帰着：16時30分 (予定)
 定員：40名 (先着順)
 参加費：2,000円 (バス代・お弁当・お茶・保険料込)

■当日の内容

- 圃場視察：数々のコンテストで評価された「土づくり」を担当生徒が説明します。
- 農作業体験：*定植：キャベツ・サツマイモの苗を植付けます。
*収穫：旬のアスパラガス収穫 (試食程度)
- 昼食&お買い物：道の駅「真狩フラワーセンター」や「湧き水の里 真狩豆腐工房」で地元の恵みをお買い物。

【旅行実施】株式会社コーポトラベル 観光庁長官登録旅行業 第2019号

■予告：栽培報告会開催！

2026年10月7日(水) 「実りの秋・畑でカフェ」
 収穫を迎える秋の圃場で、ティータイムを計画中。
 ぜひ見届けに来てください。

■お申し込み・持ち物

- 持ち物：長靴(または汚れても良い靴)・軍手・飲料・雨天時は雨具
- 申込方法：右のコードを読み取り、ホームページよりお申し込み下さい。 **Scan here** →



申込締切：2026年5月29日(金)

第2弾

「土を育てる農業」

サステナブル菜園づくり

参加者募集!!



■企画内容

環境再生型農業で数々の賞を受賞している真狩高校の事例を参考にくるの杜エルフィンファーム (約20坪使用) にて「土を育てる農業」の栽培体験を行います。目的は、土と微生物の力により野菜が育つ仕組みを利用し「環境に負荷を与えない栽培方法」を学びます。

【了解事項】(1)天候・病害虫の状況により作物の成長が十分とはならない場合があります。(2)目的は体験と学習につき、栽培品の持ち帰りを前提としていません。(3)他の農園利用者の区画には、立ち入らないこと。(4)記録作成のために写真撮影を致します。

開催概要

〈1回目〉
 日時：2026年6月17日(水) 雨天中止
 集合：10時 (交通手段は各自でお願いします)
 集合場所：くるるの杜エルフィンファーム316区画 (北広島市大曲377番地1)
 定員：10名 (*応募多数の時は抽選)
 ★2回ともすべて参加可能な方
 解散：12時30分 (予定) **参加費：無料**

■当日の内容

- 圃場及び栽培方法の説明 (不耕起・未利用資源)
- 播種・植付作業 (キャベツ・小豆・サツマイモ他)

■お申し込み・持ち物

- 持ち物：移植ゴテ・長靴・軍手・タオル・飲料・軽食
- 申込方法：右のコードを読み取り、Google フォームよりお申込み下さい。
 ※記載頂いた個人情報は、この企画以外の目的には使用致しません。

開催概要

〈2回目〉
 日時：2026年10月14日(水) 雨天中止
 (※作物の生育状況・天候により日程が変更となる場合があります。)
 集合：10時 (交通手段は各自でお願いします)
 集合場所：くるるの杜エルフィンファーム316区画
 解散：13時 (予定) **参加費：無料**

■当日の内容

- 野菜の生育・収穫方法の説明
- 収穫作業
- 試食・交流

申込締切
 2026年
 5月29日(金)



第43回

2026年3月25日(水)～3月27日(金)

「ピースアクション in オキナワ」に参加して

コープさっぽろ組合員活動委員会
南空知地区委員長

庄司 智美

「ピースアクション in オキナワ」に参加し、戦争経験者の方のお話を伺い、沖縄の戦跡や基地等を巡る中で、耳を塞ぎたくなるほど悲惨な話や、辛い想像しかできない戦跡の見学など、気持ちが重くなる3日間を過ごしました。しかし、二度と同じ過ちを繰り返さないために何をすべきか、真剣に考えさせられる貴重な時間となりました。今後もこのような機会を作り、一人でも多くの方にこの事実を知っていただきたいと強く思いました。



沖縄で見た家の造り



トーチカの中に入り、当時の場景を思い浮かべる

「考える」きっかけになりたい

釧路公立大学 経済学部 経営学科 3年

庄野 葉月

第43回ピースアクション in オキナワは3日間の平和学習を通して81年前の戦争を知り、平和を考える日本生協連様の事業です。私はコープさっぽろとして参加させていただきました。

1日目は戦争経験者の方と沖縄国際大学の前泊教授のお話を聴きました。2日目3日目はフィールドワークでした。糸数豪や平和祈念資料館、米軍基地の側にも行きました。すべてのプログラムを通して「自分が当事者であったら」という仮定を考えた時、辛いものを感じました。平和につい

て、戦争について「考える」という最初のステップを踏み出せるためには「伝える」人が重要になります。広島長崎沖縄の人は特に「伝える」活動に力を入れています。私も北海道という地で「伝える」ことをしていきたいと思いました。

プログラムとは別に、沖縄で特に注目していたものがあります。それは「街並み」と「人柄」です。多くの時間がバス移動の3日間、窓の外を見ると北海道とは全く異なる景色が広がっていました。レンガの壁と瓦の屋根、大抵の住宅は1階が駐車場になっており、地面と玄関を階段が繋いでいる造りになっています。「なぜこのような家の造りなのか」という疑問をインターネットで調べずに、津波対策か、台風対策か、はたまた別の理由なのか「自分で考える」ということが有意義な時間を感じました。加えて「なぜ沖縄の人はこんなに優しいのだろうか」という疑問も抱きました。ピースアクションに関わっている人だけでなく、観光地の店員さんやタクシー運転手さん、様々な沖縄の方々のおもてなしや言葉の優しさに触れました。それは「人の輪を大切に、助け、戦争をなくすため」ではないかと私は考えています。私の考えに対して賛否両論あると思いますが、この「考える」ことが楽しいのです。皆さんも今「なんでだろう」と考えていませんか。

さて、平和学習のゴールはどこでしょうか。よく最後に問われることは「平和とはなにか」ですが、その答えはひとつではありません。十人十色な平和があり、それを導くためには「考える」ことが不可欠です。私は自分の「平和」を考え、見つけました。皆様も自分の平和を見つけるため、これを機に考えてみませんか。